中学３年　国語科　教材別テスト③　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　「学びて時に之を習ふ―『論語』から」（光村図書『国語３』）

【このテストの使い方】

教科書の現代語訳や脚注・解説は載せていません。**教科書『国語３』の「学びて時に之を習ふ」のページを開いたまま**解答します。大問四に示した書き下し文は『論語』の原文（公有）です。この教材は、①**漢文を訓読するきまり（返り点・送り仮名・置き字）**と、②**二千年前の言葉を自分の生き方に結びつけて考えること**の二つが学習の柱になります。記述は「**～こと。**」「**～という考え。**」と文末の形をそろえて書かせ、採点をそろえやすくしています。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	漢文の基礎（白文・訓読文・書き下し文／返り点／置き字／否定／再読文字／語順）	２点×９＝18点
	三	語句と古典の基礎知識（孔子・『論語』・「曰はく」の読み・四書・仁・四字熟語）	２点×６＝12点
思考・判断・表現 50点	四	『論語』の章句の読解と、自分の生活への活用	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　**白文・訓読文・書き下し文**の三つを区別し、返り点（レ点・一二点）にしたがって読む順序を決められるか。

②　**置き字（而・於・乎）**は読まない、「**不**」**は仮名に直す**など、訓読のきまりを知っているか。

③　『論語』が**孔子自身の著作ではなく、弟子たちがまとめた言行録**であることを理解しているか。

④　章句の内容を、「**学びと思考の両立**」「**他者への思いやり**」「**知らないことを認める誠実さ**」など、自分の言葉で要約できるか。

⑤　**対句・反復・「～ずや」という問いかけの形**が、言葉の説得力を生んでいることに気づけるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	ろんご	⑪	文学
②	こうし	⑫	尊敬
③	でし	⑬	思想
④	じゅきょう	⑭	議論
⑤	まど（う）	⑮	教え
⑥	つつし（む）	⑯	過ち
⑦	とく	⑰	補う
⑧	うやま（う）	⑱	実践
⑨	くんし	⑲	反省
⑩	おこた（る）	⑳	誠実

小計　20点

【注意したい字】

③「弟子」は「**でし**」。「ていし」と読まない。④「儒」は「にんべん＋需」。「需教」と書く誤りに注意。⑤⑥⑧⑩⑮⑯⑰は**送りがなまで書けて正答**。⑥「慎む」は「つつしむ」。「しんむ」のような音読みは×。⑩「怠る」は「おこたる」、「怠ける」は「なまける」で、読み分けが必要。⑯「**過ち**」は「誤ち」と書かない（「あやまる」＝謝る／誤るとの書き分けにも注意）。⑰「補う」の送りがなは「**う**」**だけ**（「補なう」は×）。⑱「実践」は「実戦」「実選」と混同しやすい。**践＝ふみおこなう**意。⑳「誠実」の「誠」は「言＋成」。

二　漢文の基礎　（２点×９＝18点）

番号	解答	解説
(1)	**①イ　②ア　③ウ**	①**白文**＝漢字だけの原文。②**訓読文**＝白文に返り点・送り仮名（歴史的仮名遣いの片仮名）を加えたもの。③**書き下し文**＝訓読文を日本語の文として漢字と仮名で書き表したもの。助動詞・助詞にあたる字は仮名に直す。**三つそろって２点（完答）**。
(2)	**レ点**	レ点は、**すぐ下の一字から上の一字へ**返って読む指示。二字以上へだてて返るときは**一二点**（一・二・三…）を使う。「レ点」「レ」いずれも正答。
(3)	**敏　→　学　→　好**	「敏而好〈レ〉学」。**而**は置き字なので読まない。「好」にレ点があるので、すぐ下の「学」を読んでから「好」へ返る。書き下し文は「**敏にして学を好む**」（才知がすぐれていて学ぶことを好む）。順序が一か所でもちがえば０点。
(4)	**而**	「而」はここでは**置き字**で、読まれないかわりに前の語に送り仮名「シテ」がついて「敏に**して**」となる。
(5)	**置き字**	「而」「於」「乎」などは、文の調子や関係を示すだけで**訓読せず、書き下し文にも書かない**。「於」は「〜において」、「乎」は疑問・感動の働きを、送り仮名のほうで表す。
(6)	**古　→　人　→　書　→　読**	「読〈二〉古人書〈一〉」。一二点は「一」**のついた字を先に**、「二」**のついた字を後に**読む。「読（二）」を飛ばして「古」「人」「書（一）」まで読んでから「読」へ返る。書き下し文は「**古人の書を読む**」。
(7)	**学ばず**	「不〈レ〉学」。レ点なので「学」→「不」の順。否定の「不」は**助動詞にあたるので仮名に直して「ず」**と書く。「学不ず」「不学ず」は０点。同じ考え方で「未〈レ〉知」→「未だ知らず」。
(8)	**再読文字**	「未・将・当・応・須・宜・猶」など。一度めは副詞として（未＝いまだ）、二度めは助動詞などとして（〜ず）読むので、同じ字を**二回**読む。
(9)	**イ**	漢文は「**主語→述語→目的語**」（例「我読書」）。日本語は「主語→目的語→述語」なので、述語と目的語の順が逆になる。この「逆」をもどすために返り点が必要になる、という理解が大切。

小計　18点

三　語句と古典の基礎知識　（２点× ６ ＝12点）

番号	解答	解説
(1)	**イ**	孔子は中国の**春秋時代**（紀元前六〜五世紀ごろ）の思想家。その教えが後に**儒教**として受けつがれた。ア（釈迦）・ウ（李白・杜甫など）・エとの混同に注意。
(2)	**ウ**	『論語』は**孔子自身の著作ではない**。孔子の死後、弟子たちが師の言葉や行い（＝**言行録**）を書きとめ、編集したもの。「子曰はく」という書き出しが多いのはそのため。ア・イを選ぶ誤りが最も多い。
(3)	**いわく**	「曰はく」は歴史的仮名遣いで「いはく」、**現代かなづかいでは「いわく」**。「子」は本来**先生・師に対する敬称**で、『論語』の中で単に「子」とあれば孔子を指す。「先生がおっしゃった」という意味で「子曰はく」。
(4)	**『大学』・『中庸』・『孟子』**	四書＝**論語・大学・中庸・孟子**。順序は問わない。三つそろって２点（**完答**）。『孟子』は人名でもあり書名でもある。
(5)	**仁**	「仁」＝**人を思いやる心**。孔子の教えの中心で、「恕（じょ）」＝自分に置きかえて相手を思うこと、とも深く結びつく。「徳」は人格のすぐれた在り方全体を指すので、ここでは×。
(6)	**①巧言令色　②切磋琢磨**	①は『論語』の「**巧言令色、鮮なし仁**」から生まれた四字熟語。②は『詩経』『論語』にゆかりの深い語で、玉や石を切り磨くことから「たがいに励まし合って向上する」意。両方そろって２点（**完答**）。「功言令色」「切磨琢磨」などの誤字は×。

小計　12点　／　知識・技能　合計　50点

【訓読のきまり　三つの確認】

①　**返り点のない字は上から順に読む**。返り点のついた字は、いったん飛ばして後で返って読む。②　**置き字（而・於・乎）は読まない**。読まないかわりに送り仮名が働く。③　**助動詞・助詞にあたる字（不・也・之の一部など）は仮名に直す**のが書き下し文のきまり。この三つを守れば、ほとんどの短文は正しく書き下せる。

四　「学びて時に之を習ふ―『論語』から」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**イ**	「習ふ」は「**くり返して身につける**」意。一度学んで終わりではなく、折にふれて復習し、自分のものになっていく手ごたえが「説（よろこ）ばしい」。ア「次々に新しいことを」は**反復**の要素が落ちるので×。
(2) 4 点	**イ**	「人知らずして慍みず」＝人が自分を認めてくれなくても**うらみに思わない**。評価されるかどうかに左右されず学び続ける人が「君子」。ア「地位」は無関係、ウ「好きなことだけ」は自分勝手で別の話。※「君子」の対になる語は「**小人（しょうじん）**」＝自分の利害でしか動かない人。
(3) 5 点	**（例）学ぶことと自分で考えることは、どちらも欠かせないという考え。（30字）**	「**学ぶだけで考えなければ身につかない**」（２点）＋「**考えるだけで学ばなければ危うい・独りよがりになる**」（２点）＋「**両方が必要だ**」というまとめ（１点）。 片方だけ書いたものは最大３点。「**～という考え。**」の形になっていなければ－１点。25～35字から外れたら－１点。
(4) 3 点	**イ**	「学びて思はざれば則ち罔し／思ひて学ばざれば則ち殆し」は、**同じ組み立ての文で「学ぶ」と「思ふ」を入れかえた対句**。リズムが生まれ、二つが同じ重さであることが形の上でも示される。ア「意味は変わらない反復」は誤り。
(5) 4 点	**（例）昔の事柄を学び直し、そこから新しい知識や考えを得ること。（28字）**	「**古いこと・昔のことを学ぶ（温める＝くり返し学ぶ）**」（２点）＋「**新しい知識や考えを得る**」（２点）。 「古いものを大切にすること」だけでは２点。**古いものが新しいものを生む**という結びつきが書けているかが分かれ目。20～30字から外れたら－１点。
(6) 4 点	**イ**	「己の欲せざる所」＝自分がしてほしくないこと。「人に施すこと勿かれ」＝人にするな、という**禁止**。ア「人にあげてはいけない」は、物を贈る話にすり替えているので×。ウ・エは「自分が望むこと」「仕返し」の話で、意味が逆または別。**禁止形「勿かれ」**を読み取れているかを見る。

四　「学びて時に之を習ふ―『論語』から」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(7) 4 点	**（例）自分が知らないことを知らないと認める、誠実な態度をとること。（30字）**	「**知らないことを知らないと認める・ごまかさない**」（３点）＋「**それが本当の知である／誠実さ**」（１点）。 「何でも知るべきだ」「知識を増やすべきだ」は**０点**。知ったふりをしないという向きで書けていることが条件。「**～こと。**」の形でなければ－１点。25～35字から外れたら－１点。
(8) 4 点	**①15（歳）　②30（歳）　③40（歳）**	「十有五にして学に志す」→**志学**、「三十にして立つ」→**而立**、「四十にして惑はず」→**不惑**。「十有五」は十に五を加えた数で**十五**。「十九」と読む誤りが多い。三つそろって４点（**完答**）。参考：五十＝知命、六十＝耳順。
(9) 3 点	**ウ**	「三人」は「**わずかな人数でも**」という意味。相手がどんな人であっても学ぶべき点があるという、**学ぶ姿勢そのもの**を説いた言葉。ア・イのように人数の話にしてしまう誤りが多い。
(10) 4 点	**イ**	「～ずや」は「**～ではないか**」**という問いかけの形**（**反語**）。言い切るより、読む人に「たしかにそうだ」と自分でうなずかせる力をもつ。さらに**同じ形を三度くり返す**ことで調子が整い、三つの喜びが並び立つ。
(11) 5 点	**（例）人としてどう学び、どう生きるかという、時代を超えた問いを示しているから。（36字）**	「**学び方・生き方という普遍的な（どの時代の人にも関わる）内容**」（３点）＋「**短く覚えやすい言葉で示され、読む人が自分に当てはめて考えられる**」（２点）のいずれかが書けていれば加点。 「有名だから」「中国の古典だから」のような**理由になっていないもの**は０点。30～40字から外れたら－１点。

四　「学びて時に之を習ふ―『論語』から」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(12) 6 点	**（例）記号＝D** **「己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ」を心にとめ、友にいやな思いをさせない言葉を選びたい。(45字)**	【ルーブリック】 ①**記号**がA～Gのいずれかで示されている…1点（無記号は－1点）。 ②選んだ章句の**意味を正しくとらえている**…2点（意味を取りちがえていれば0点）。 ③**自分の生活の具体的な場面**（学習・部活動・友人関係・家庭など）が書かれている…2点（「がんばりたい」だけの抽象的な決意は0点）。 ④**章句と行動のつながり**が自然で、文として整っている…1点。 ※40～50字から外れたら－1点。 他の例：Eを選び「わからないことをわからないと言い、質問してから進めたい」など。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. 『論語』は**孔子が書いた本ではない**。弟子たちがまとめた**言行録**である。ここを間違えると(2)系の設問が全滅する。
2. 「子曰はく」の「**子**」**は孔子**。「子ども」ではない。「曰はく」は歴史的仮名遣いで「いはく」、現代かなづかいでは「いわく」と読む。
3. **置き字（而・於・乎）は読まない**。「学而時習之」の「而」を読んで「学び而…」としてしまう誤りが定番。
4. 返り点は**レ点＝一字返る／一二点＝二字以上へだてて返る**。「一」のついた字を先に読むことを必ず確認する。
5. 「**不**」「**未**」**などは仮名に直す**（学ばず／未だ知らず)。漢字のまま残すと書き下し文として×。
6. 「**習ふ**」は「くり返して身につける」。「練習する」ではなく**復習・反復**の意。(1)の正答の決め手。
7. Bは**対句**。「学ぶ」と「思ふ」のどちらか一方だけを答えると半分しか得点できない。**両方必要**という結論まで書く。
8. 「三人行けば…」の「三人」は**人数の指定ではない**。「どんな相手からでも学べる」という姿勢を読み取る。